

平城遷都1300年祭記念事業

～茶の文化発祥の地 奈良～

平城遷都1300年祭の平城宮跡会場の交流ホールにおいて、奈良県建築士会女性委員会は、茶の文化発祥の地奈良として「もてなしの心」を伝えるべく茶室の様式美や伝統美、その構法・構築の仕方を展示し、わび茶の祖「村田珠光」の茶室「獨盧庵」を再現します。

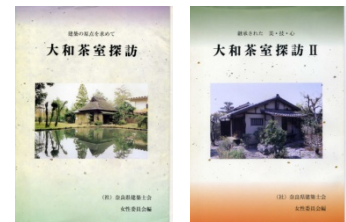
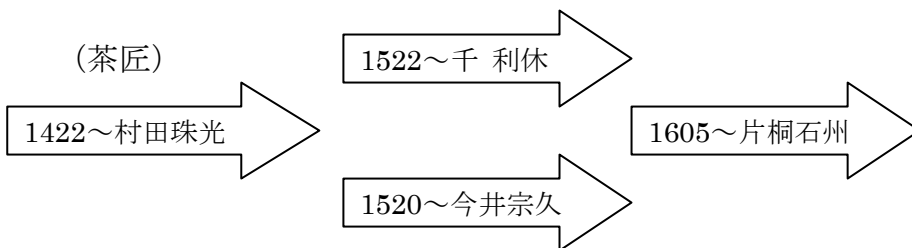
襖の引手

- * 出展期間 平成22年7月1日(木)～7月3日(土)
9:00～16:30(ただし3日は17:30まで)
- * 場所 交流広場「交流ホール」にて
- * 出展 橿原支部(今井町)・宇陀支部(松山地区)
[重要伝統的建造物群保存地区紹介]
女性委員会・青年委員会



○展示内容

- 1、茶の伝来 * 茶の伝来・大和茶の発祥 * 高山茶筥・赤膚焼
* 武家茶から侘び茶へ、茶祖(村田珠光)による4畳半茶室形式の確立



好評販売中

- 2、大和茶室紹介 * 奈良を代表する茶室をパネルで紹介
・西大寺(六窓庵) ・慈光院(高林庵・閑) ・當麻寺中之坊(双塔庵・知足庵)
・長谷寺(茄藻庵) ・室生寺(知水庵) など・・・・・・10軒

- 3、茶室模型(原寸)製作・展示・・・・称名寺(獨盧庵)

獨盧庵



八窓庵



(社) 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町二丁目5番7号
TEL (0742)30-3111
FAX (0742)33-4333

～～平城遷都1300年祭～～

．．．．．茶の文化発祥の地・奈良．．．．．

弘法大師が難波津から博多を經由し、入唐したのが804年と言われています。大師は全国津々浦々にその足跡を残していますが、奈良の室生寺や仏隆寺には「弘法大師の茶種持ち帰り説」が伝承されています。「13世紀はじめ栄西禅師が宋から茶種を持ち帰り、各地に栽培方法を教えたのが茶のはじまり」とする説がある中で、私たち（社）奈良県建築士会女性委員会では、遣唐使であった弘法大師が茶種を持ち帰り、大和高原や山城一帯に広めて言ったという説にロマンを感じ、このたび平城遷都1300年祭に「茶の文化発祥の地・奈良」を全国にアピールしようと行事に参画いたしました。

最初、禅寺では修業中の眠気を払うために自家栽培した茶を用いていました。慈善救済のために茶を薬用として民衆に分け与えたのが叡尊上人で、西大寺の大茶盛の行事として残っています。

室町時代に畳を敷いた書院造りが完成し、書院茶の湯が武家社会において成立しました。能阿弥の紹介により足利義政の茶の師になった村田珠光は奈良に生まれ、珠光が少年時代を過したのが奈良市菖蒲池町にある称名寺です。豪華なものではなく素朴枯淡なものに美を見出したわび茶の祖といわれる珠光の茶は、武野紹鷗に伝承され、紹鷗から千利休へと受け継がれていきました。

また、江戸時代には大名の茶の湯が盛んになり、大和小泉藩主片桐石州は徳川綱吉に茶道師範として仕え、後の大名茶に大きな影響を与えています。石州ゆかりの大和小泉慈光院や當麻寺中之坊の茶室は国の重要文化財です。

生駒市高山の茶道具である茶筌の生産、奈良赤膚焼、また茶の栽培は静岡、京都、三重、鹿児島などと並び全国的な生産高を誇るなど、奈良には茶に纏わる事象が大変多くあります。

1300年の時流に思いをはせるとき、私たちは「もてなしの心」を茶の文化発祥の地奈良に、と求めるものです。平城遷都1300年を迎えるにあたり、先人の知恵に感謝し、畏敬を持ってまた次の時代に伝えていきたいと願っています。そして私たち奈良県建築士会女性委員会では、茶室を通じてその様式美や伝統美、その工法や構築の仕方などを伝えるとともにその『心』を『建築』を通して伝えていきたいと考えています。

(社) 奈良県建築士会 女性委員会